

# 漂流軽石研究：海域火山調査とハザード評価



2021.8.13の福岡ノ場噴火  
(海上保安庁撮影)



2021年8月13日に噴火した福岡ノ場は大量の軽石を放出しました。漂流する軽石は沖縄をはじめとした各地へ漂着し、社会に様々な影響を与えました。

私たちの研究グループでは、調査船を用いた現地調査や漂着軽石を用いた化学分析などを通じて、海の彼方で起きる火山活動の歴史とメカニズムを研究しています。

また、今後、想定外の被害を起こさないためにも、適切なリスク・ハザード評価を目的とした予測シミュレーション研究も実施しています。

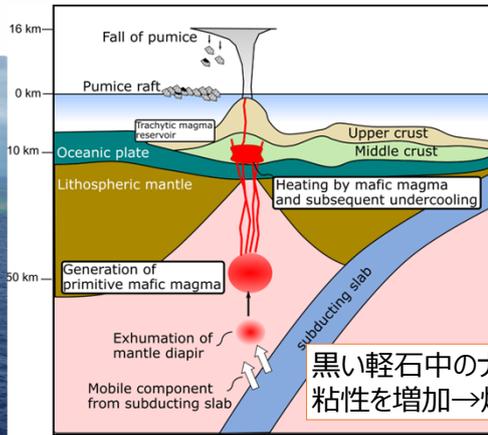


琉球諸島の海岸を埋め尽くす大量の漂着軽石

## ○海域火山の物質科学的調査



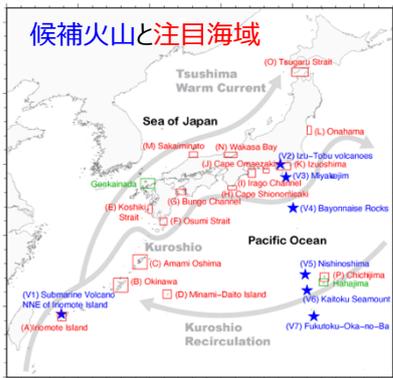
研究船「よこすか」での西之島・福岡ノ場調査航海（2022.8）



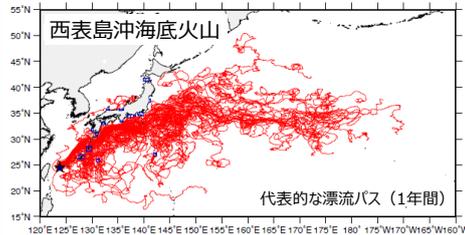
「灰色」の軽石と「黒い」軽石があるのは福岡ノ場の特徴の一つ

黒い軽石中のナライトの晶出がマグマの粘性を増加→爆発的な噴火の一因に

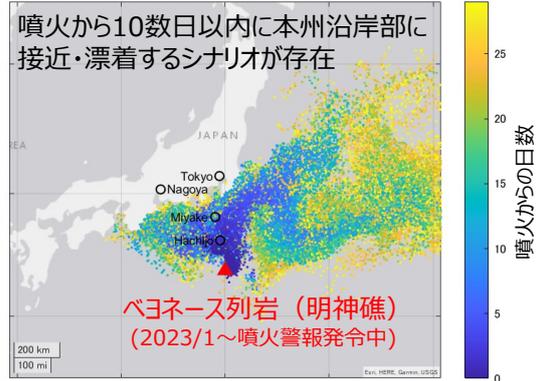
## ○ハザード評価のためのシミュレーション研究



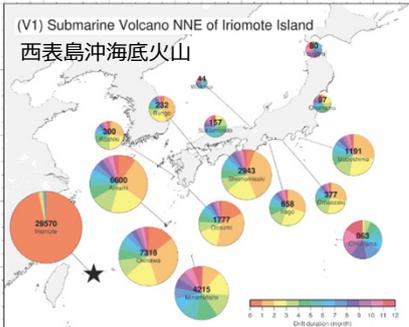
噴火前に、候補火山からの軽石漂流シミュレーションを実施し、あらかじめ、漂着までの期間や量を見積もっておく



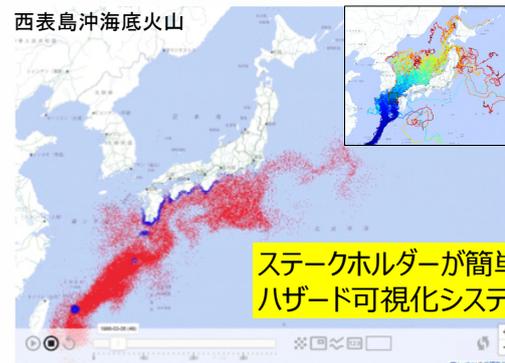
### 首都圏への漂流ハザードの存在が明らかに



### 漂着個数と漂流期間



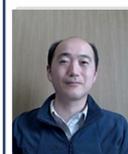
### 西表島沖海底火山



ステークホルダーが簡単に利用できるハザード可視化システムを構築中

付加価値情報創生部門 地球情報科学技術センターとの共同研究

## 音声ガイド



右の二次元コードより音声ガイドを聞くことができます。  
桑谷 立  
海域地震火山部門 火山・地球内部研究センター 固体地球データ科学研究グループ

